

バカとAクラスと・・・

泉夜

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## あらすじ

はじめまして泉夜（みや）です

初投稿です

更新が遅かったりミスが多かったり

しますが暖かい目で見てください

アドバイスや感想、指摘待っています

# 目次

1 話	始まりの日	1
2 話	試験戦争始まる(仮)	10
3 話	もう一つのお願	27
4 話	試験戦争来たる	35



# 1話 始まりの日

「試験召喚システム」

科学とオカルトと偶然によって完成された

それはテストの点数に応じた召喚獣を呼び出せる

最先端システム

召喚獣用いた戦争・・・

試験召喚戦争

この話は、そんな文月学園の物語である・・・

明久side

「うーん、眠い。」

そう言いながら起きたのは、吉井明久

観察処分者《バカの代名詞》

僕は、いつもの道を歩いて登校した

校門前

明久

「おはようございませす鉄乙西村先生。」

鉄人

「今鉄人といわなかったか？」

そういつたのは、鉄人こと西村先生

趣味はトライアスロン

明久

「空耳です。」キリ

鉄人

「真顔で嘘をつくくな．．まあいい、お前何があつた？」

なぜわかつた!?

明久

「半年勉強しました。」

姉さんにも言われたしね

鉄人

「そうか．．」

そう言つて鉄人は僕に封筒を渡した

『吉井明久 Aクラス主席』

明久

「やったあああああ」

鉄人

「お前は、やればできるバカみたいだな…」

学問に励みながら楽しい一年を過ごしてこい。」

そして僕はAクラスに向かった

Aクラス前

明久

「こっこれが教室!?!」

普通の教室の4〜5倍あるかな?

そして僕は教室に入った

霧島

「…おはよう… 吉井」

明久

「半年勉強したから」

優子

「おはよう吉井君

勉強頑張ったんだね」

明久

「木下さんおはよう

うん頑張ったんだ」

Aモブ

「え．．あの観察処分者が？」

AモブB

「吉井ってバカじゃなかったけ？」

AモブC

「カンニングしたんじゃない．．」

ざわ．．ざわ．．

やっぱりそうゆう反応だよ

高橋女史

「そんなことありません、

私たちの監視下でしたし吉井君は学年主席です」

Aモブ

「学年主席!?! すまない吉井」

明久

「別に気にしてないからいいよ」

高橋女史

「HRを始めますので席についてください…」

二年A組の担任高橋洋子です

設備の確認をします…

ノートPC、個人エアコン、リクライニングシート

設備に不満がありませんか?

あればなんなりと言ってください」

「「「これで不満がある人はボンボン（でしょ）（だろ）（だ）」「」」」

いまAクラスがまとまった気がする

高橋女史

「それでは学年代表の吉井君挨拶をおねがいます」

うゝ緊張する

明久

「はい」

そして僕は壇上に上った

明久

「Aクラスの代表の吉井明久です

試験戦争基本的にこちらから仕掛けませんが

仕掛けられると思うので準備をしてみてください

僕の予想だと今日中に試召戦争を仕掛けられると思

ますので準備をしてみてください。以上」

Aクラス

「パチパチ…拍手」

よし、つまらなかったぞ

優子

「吉井君どうして今日中に

仕掛けられると思うの?」

明久

「Fクラスの雄二達に仕掛けられると思うんだよ」

優子

「Fクラスだったら余裕じゃないの?」

明久

「うーん、雄二は昔神童と呼ばれてたし

保健で学年一位の康太もいるし

秀吉も古典ならAクラス並だから」

優子

「そう… 秀吉もそこまで学力伸ばしてたのね…」

明久

「それにAクラスにいないから姫路さんもFクラスにいると思う」

翔子

「… 油断大敵」

愛子

「康太くんってどんな子なんだろう」

久保

「姫路さんがFクラスなんて残念だ」

明久

「そうだね…」

愛子

「この際ここみんなは名前でもよばない？」

明久

「僕はいいよ♪」

利光

「僕も別にいいよ」

翔子

「……私もいい」

優子

「私もいいわよ」

愛子

「じゃあ決定〜」

ドドドドドド (地響き)

Fクラス

「明久どうゆうことだ!？」

短くつてすみません

初心者の泉夜です

更新が遅いし文がオカシイ、誤字脱字があるかも  
ですがよろしくお願いします

←最初はこうゆう感じで書いていこうと思います←

明久

「~~~~~」

## 2話 試験戦争始まる（仮）

どうも泉夜（みや）です

1話読んでいただき誠にありがとうございます

感想、アドバイスありがとうございます。

これからも更新がくれたりつまらないかもしれませんが感想、アドバイスをよろしくです

では本編行きます

---

前回まで

姉さん（鈴）によって半年間真面目に勉強してAクラスにはいったのであった

明久がAクラスにはいったそのときFクラスでは…

雄二 Side

雄二

「明久のヤツ初日からちこくか？」

康太

「… 目覚ましの電池が切りてたとか…」

雄二

「確かに明久ならありそうだ」

あいつらがきたか…

島田

「アキなんでいないのよ！

お仕置きが必要のようね」

姫路

「そうですね！美波ちゃん!!」

島田 姫路はまた明久に暴力ふるうきか！

ガラガラ

福原先生

「HR 始めるので席に座ってください」

Fモブ

「席どこですか？」

福原先生

「自由に座ってください」

このクラスは席も決まってないんかい！

福原先生

「このたび二年F組担任になった…福原慎です」

チヨークさえもよういされてないのか!?

福原先生

「設備の確認です、

ちゃぶ台、座布団、不備があつたら

申し出てください」

Fモブ

「せんせー座布団にぜんぜん綿が入ってません」

福原先生

「あーはい、我慢してください」

FモブB

「せんせーキノコが生えているので

食べていいですか?」

食べるなよ…

福原先生

「我慢してください」

FモブC

「本当に教室かここ？」

FモブA

「Aクラスと違いすぎるだろ」

ざわ…ざわ…

福原先生

「静かにしてください」

っといつて先生が教卓をたたいたら…

ガラガラといつて教卓が木材となった…

福原先生

「…代わりの物を取ってくるので代表の坂本君

挨拶をお願いします」

雄二

「へーい」

俺は前が出る

雄二

「皆に質問がある…」

この教室に不満はないか？

Fクラス

「「「おおありじやああああ」」」」

これで不満ない奴なんてそうそういない

雄二

「俺もだ、だから俺は試験戦争をAクラスに

仕掛けようと思う」

Fクラス

「勝てるわけない」

「姫路さんがいれば何もいらない」

雄二

「勝てるさなんだって姫路がいる

保健学年一位の康太もいる

演劇部のホープ秀吉もいる」

Fクラス

「確かにこれならかてそうだ…」

「確か坂本もむかし神童つてよばれてたよな」

「まじかよ勝てるかも」

雄二

「皆武器《ペン》を持って戦争だ」

Fクラス

「」「」「うおおおおおおお」「」「」

流石Fクラス乗せやすい

秀吉

「雄二よちよつとよいかの？」

雄二

「なんだ？秀吉」

秀吉

「姉上からメールで明久はAクラスらしいのじゃ」

雄二

「本当か？なら一回いってみるか」

明久のことだ何か裏があるな

明久 s i d e

雄秀康

「明久どうゆうことだ!？」

明久

「半年間勉強したらAクラスになっちゃった」

雄二

「なるほどな」

え！これで納得するの!？」

秀吉

「姉上から聞いおったが…」

康太

「…すごい」

明久

「ありがと… 雄二たちなんかあったの?」

いきなり来たんだからなんかあるだろうな

雄二

「… 明久きおつけろ」

明久

「え？どうゆうk「アキー（よしいくーん）」

ボコ… 姫路さんにくぎバットで殴られた

島田

「ナイス瑞希」

そういつて島田さんは僕に関節技をかける

明久

「え!?僕まだなにもしてn

いたたたた…痛いよ島田さん!」

島田

「なにとぼけてるのよ!」

カンニングしたからAクラスなんでしょ!」

またやられるのか…

姫路

「吉井君カンニングはいけないんですよ」

もうやだよ暴力は…

優子

「やめなさい明久君がいやがってるわ」

島田

「これはおしおきだからいいのよ」

姫路

「そうです吉井君はカンニングしたんです」

優子

「カンニングして学年主席になれるわけないじゃない

それにあなたたちがお仕置きする理由にわならないわ」

島田

「うる s 「島田！ 姫路！ ぶぎけるな！」 なによ！」

雄二

「きえろ！ 明久にちかずくな！」

島田

「なんでいわ r 「きえろ！」 いくよ瑞希」

明久

「ゆ・雄二ありがとう。」

雄二

「しゃべらなくなっていく」

愛子

「アッキー……」

利光

「明久君……」

優子

「私明久君についていくわ」

翔子

「…… 私たちもついていく」

優子

「気持ちわかるんだけどあまり大勢でいっちゃあダメだわ」

翔子

「…… わかった後でみんなで見舞いに行く」

雄二

「すまないこっちはさっきのことを鉄人に伝えてくる

後で見舞いに行く」

そして優子さんにつきそってもらって保健室に向かった

保健室

優子

「誰もいないみたいわね」

明久

「ごめんね勉強の時間とっちゃって」

優子

「明久君が悪くないあの二人が悪いんじゃない」

「そこに座って」

「そういつて優子さんはガーゼと包帯を出して治療を始めた」

優子

「もしよかったらあの二人との関係を聞いていいかしら？」

明久

「うんいいよ、」

「少なくとも僕は友達だと思ってるけど」

「ほかの女子とかとしゃべるだけでお仕置きって言われて」

「暴力を振るわれるんだ……」

「本当に友達ってこうなのかな……」シクシク

優子

「違うわよ…」ダキ

そういつて優子は抱いてくれた

優子

「暴力を振るわれそうになったら私が守ってあげる

くじけそうになったら私が支えてあげる

だから今は泣いていいわよ」

僕は泣いた…

子供のように泣いた…

明久

「ありがとうもう落ち着いたから…」

優子さんは名前の通り優しいんだね素敵だし」

優子

「あ／＼ありがとう／＼今まで言われたこと

なかったからうれしいわ／＼」

明久

「そうなの？こんなに魅力的な女性なのに」

僕は首をかしげた

優子

「／／／／／」

ガラガラ

といて雄二、秀吉、康太

雄二

「あの二人は鉄人に渡した

すまなかつた明久」

雄二は頭を下げた

明久

「雄二らしくないよそれも雄二の

せいじゃないから謝らないでよ」

雄二

「そうか？」

康太

「……怪我どうだった？」

つとみんな心配してくれた

秀吉

「ところでなぜ木下姉は顔が赤いんだ？」

優子

「え／＼／」

秀吉

「姉上ちよつとよいかの？」

優子

「どうしたの秀吉？」

秀吉と優子さんは保健しつからでた

優子 side

秀吉

「姉上明久に惚れたじゃろ」ニヤニヤ

優子

「ひーでーよーしー／＼／」

秀吉

「姉上！その関節はそつちにまがらないのじゃ」

優子

「余計な詮索しないこといいわね？」

秀吉

「わかったのじゃ」

そうして手をはした

明久 side

秀吉と優子さんがでてたとき

雄二

「明久木下姉に惚れただろ」ニヤニヤ

明久

「な／＼」

雄二

「やはりなー」ニヤニヤ

康太

「・・・わかりやすい」

雄二

「まあ応援しといてやるよ」ニヤニヤ

秀吉と優子さんが帰ってきた

明久

「そういえば雄二朝Aクラスに来たんだから  
なんかようあつたんじゃないの?」

雄二

「ああそれはFクラスがAクラスに宣戦布告に行ったんだ」

明久

「やっぱりね」

優子

「明久君の予想どうりわね」

雄二

「内容は1:1の一騎打ちで代表5人を選んでくれ教科選択は2:3でいいか?」

明久

「いいよ♪」

「そして負けたクラスは?」

雄二

「負けたら勝った奴のゆうことを一つ聞く」

明久

「まだなんかあるんじゃないの？」

そのもう一つは！

続く

---

次はたぶん試験戦争だと思います

この話は1話投稿して徹夜で作ってみましたがどうでしょうか？

雑になってるかもです

読んでいただき誠にありがとうございます

### 3話 もう一つのお願

リアルで前期が終わりそうな泉夜（みや）です  
成績はFクラス並みだと思います…ガチで：

しかも今のところ一日更新…いつまで続くんでしょね…

短いですがよろしくです

さあ本編です

明久 s i d e

雄二

「鋭くなつたな…」

そうだ！いい戦いでしたらもう

一回振り分け試験を受けられる」

明久

「なるほどね♪ならAクラスに来る人は

康太、秀吉、雄二だね♪

姫路さんはあのようだし…。」

個人的でも姫路さんと

島田さんには来て欲しくない…。」

秀吉

「ワシたちはAクラスに必ずいくのじゃ」

康太

「…。」ブンブン（縦に首を振ってる）

雄二

「ああ楽しみに待ってけ！」

明久

「うん！」

優子

「秀吉、必ず勉強しとくのよ」

秀吉

「承知」

ガラガラ

翔子

「……大丈夫？明久

……雄二？」

雄二

「邪魔してるぞ」

愛子

「アツキー優子来たよ」

利光

「明久くんじやまするよ」

明久

「翔子さん、愛子さん、利光くん

来てくれてありがとう」

愛子

「うん……どうしてFクラスが？」

明久

「ああまだ紹介してないね

それじゃあ雄二から」

雄二

「俺は坂本雄二明久の悪友《親友》だ」

愛子

「うんよろしくね」

秀吉

「わしは木下秀吉、姉上ともに

よろしくたのむのじゃ」

愛子

「優子の弟くんかあ」

「優子にそっくりだね」

康太

「……土屋康太」

愛子

「へえ、君がああ康太くんか」

「よろしくねもちろん」

愛子

「……実技だね」

康太

「ブファ」

明久

「康太！ダメだよ愛子さんからかつちや」

愛子

「ごめんね」

翔子

「・・・何話してたの？」

僕はさっきのことを話した

翔子

「・・・そう」

明久

「じゃあ日付は明日でいい？」

優子

「腕の怪我大丈夫なの？」

明久

「別に僕は大丈夫だよ

大した怪我じゃないし」

優子

「そうなの？」

雄二

「俺たちは手加減はしないぞ」

明久

「わかつてるよ雄二たちは手加減しないって」

雄二

「ああじゃあまたな」

ガラガラ

雄二、秀吉、康太は保健室からでていった

明久

「じゃあ僕たちももどろう」

優翔愛利

「(そうだね)(そうわね)(∴ わかった)」

そうして僕たちも教室に戻っていった

戻ったらクラスみんなに心配された

Aモブ

「大丈夫か？」

明久

「うん大丈夫：」

それより聞いて欲しいことがあるんだ  
席についてもらえる？」

そう言ったらみんな席についてくれた  
僕は前にでた

明久

「さつきFクラスに試験戦争を申し込まれました」

Aクラス

「なんだって」

「あんなことしといて」

「吉井の予想が当たった」

ざわ：： ざわ：：

明久

「日付は明日です。形式は普通と違って

5：5でやる形式です。」

教科選択はこっちが2回Fが3回

Aモブ

「だれが出るんですか？」

明久

「相手を見て変えようと思います」

ついに試験戦争始まる

---

長らくお待たせし待つてすみません  
次は試験戦争になります。

## 4話 試験戦争来たる

泉夜（みや）です

ご指摘ありがとうございます

更新が遅れてしまつてすみません

それでは本編をどうぞ

---

明久 side

高橋女史

「それではA組対F組試験戦争を

始めます。最初の代表前に」

明久

（誰が来るんだろう？）

雄二

「島田行ってこい、教科選択はするなよ」

島田

「わかったわよ！」

明久

（島田さんか：こっちは誰を出そう

優子さんで行こうかな？）

明久

「優子さんお願いできる？」

優子

「わかったわ、まかせて」

優子 side

優子

（私はあの時明久君が暴力を振るわれてるのを

見てるだけしかできなかつた

だから守ってあげたい助けてあげたいと

思っただからここで徹底的に潰す）

島田

「あなたが一番手ね」

優子

「そうよ彼女にしたくない

ランキング一位の島田さん」

島田

「何よそれ！」ムキィー

優子

「本当のことですよ」

島田

「ふん！いいわ私の得意な教科で

叩きのめしてやる！先生数学で！」

高橋女史

「承認しました」

雄二

「選択するn「うるさい！」クソが！」

優子

（相当頭に血がのぼてるわね）

優島

「試験召喚（サモン）」

島田

「数学だとウチはBクラス並なのよ」

優子

「へえ、すごいよね」

私は当然……」

優子

(一撃で仕留めてやる)

島田さんの召喚獣の

胸にランスをヒットさせた

優子

「Aクラス並だけど」

高橋女史

「勝者A組 木下優子」

島田

「こんなの勝てるわけないじゃない」

優子

「あなたは努力したの？してないでしょ」

本来学園は遊ぶためじゃない勉強するところよ

明久君に暴力を振るう前に

道徳の勉強したら？」

島田

「言わせておく」「引っ込め！」なによ！」

雄二

「負けたんだからおとなしく

さっさと引っ込んでろ！」

島田

「つくー！」

優子

(島田さんは会場から出ってたわね)

明久 side

明久

「ありがとう優子さん」ナデナデ

優子

「ど／＼どういたしまして／＼」プシユー

優子

(ヤバイ／＼ヤバイ／＼嬉しいけど恥ずかしい／＼)  
雄二

「明久、お前大胆だな」

明久

「？」クビカシゲ

愛子

「アツキー優子いつの間に付き合っただの？」ニヤニヤ

明久

「え!?付き合ってないよ?」

明久

(付き合えたらいいけどね…)

翔子

「…優子倒れた」

明久

「えーじゃあ僕は優子さん

を保健室に連れてくね」アセアセ

愛子

「わかった」

利光

「明久君誰が指揮すればいい？」

明久

「じゃあ翔子さんをお願いするね」アセアセ

翔子

「・・・わかった・・・急いで」

明久

（どうしたんだろ急に倒れて・・・

熱あったのかな？）

明久は保健室に向かっていくのであった

続く

---

短くつてすみません

それと報告があります

一週間に一回更新しようと思います

誠にすみません

追記

これからの思っていることや考えていることは↑のようになります

明久

~~~~~